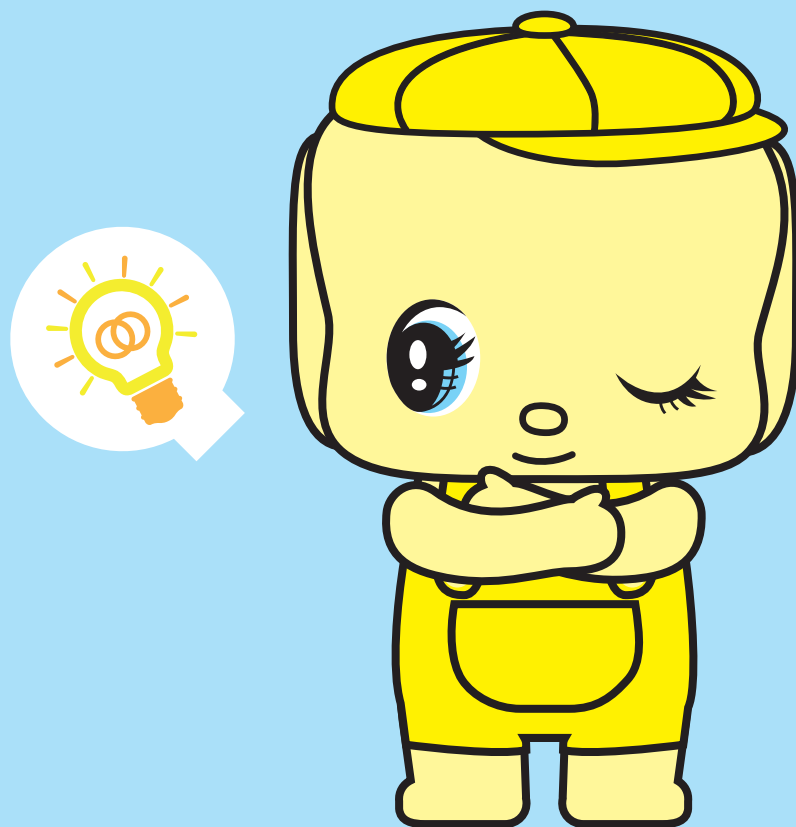


フエキくんのおはなし②



ぼくにはこれがあるですよ!



フエキくんたちは
フォーサンを追いかけて、
三輪車をキコキコ走らせます。
キコキコ、キコキコ、走らせると、
大きな森が見えてきました。
「フォーサンが森に
入っちゃいます！」
フエキくんたちは、フォーサンを
追いかけて森の中へ入ります。

みんなぞきょろきょろ、
あつちや、ころちや……。
フーサンを探してあたりを
見回します。
すると、どこかで泣き声
聞こえてきました。
「誰かが泣いているぞ！」





まわりをよくよく見^みてみると、カエルくんが泣^ないていました。

「どうしたの？」

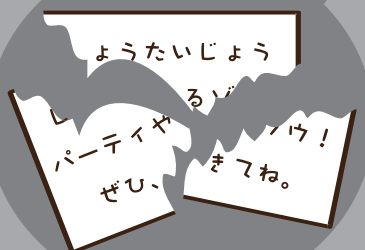
フエキくんたちはたずねます。

「おな^な達^{たち}からもらった

大事^{だいじ}な手紙^{てがみ}をころんで

やぶいてしまったんだ…。」

ようたいじょう
るい
パーティヤ
ぎてね。
ぜひ。



悲しそつに泣いてるカエルくんを見て、
フエキくんたちは何とかしてあげたい！
と思いました。

「うーん、うーん。
やぶれたおしき紙どうしよう?」
みんな一生懸命考えます。

ポタポタとキ紙キガミをくっつけ、きれいなおまじないをおげました。
ネジリネジリ、そののりを使つかい、フエキくんたちは

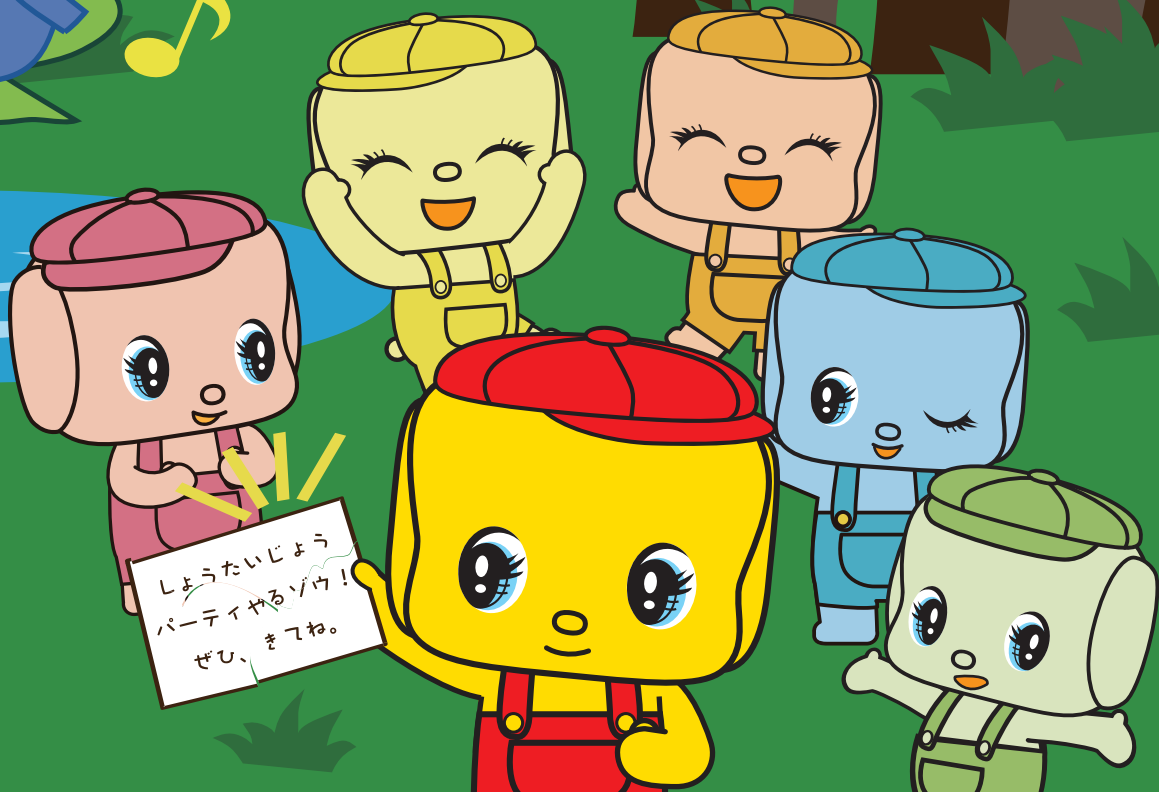
ようたいじょう
るい

きてね。





「これでもう大丈夫ですよ！」カエルくんの手紙は
きれいにくっつき、文字もしっかり読めるようになりました。
「すごいや君たち、ありがとうー！」カエルくんは大喜び。
フエキくんたちもううれしくなっ—一緒に喜びました。



しょうたいじょう
パーティーやるゾウ！
ぜひ、きてね。



すると、どこからか強い風が吹き、カエルさんと一緒にいる池の近くブルーサンガふわふわ通り過ぎるのが見えました。「あっ！」「あっ！」

フエキくんたちは慌（あわ）てて
フーセンを追（お）いかけます。
フーセンは最（さい）初（しょ）に追（お）いかけ
時（とき）よりも近（ちか）くに感（かん）じました。

「フエキくんたち、ありがとうー！」
カエルくんとは「さようば」でお別（わか）れし、
フエキくんたちはまた、三（さん）輪（りん）車（しゃ）を
走（はし）らせてフーセンを追（お）いかけ
のびました。



くげく

